

自然体験活動で身につけたいこと

8月30、31日に4、5年生合同で宿泊学習を行いました。今年度は会津自然の家を宿泊場所とし、1泊2日の活動にチャレンジしました。台風が接近し、喜多方市内の全学校が午前中で下校となるほどの悪天候でしたが、子供たちは元気そのもので、野外炊飯、小中学生用オリエンテーリング(プログラム名「宇宙大作戦」、キャンドルファイヤー、カヌー体験等に挑みました。

今回の宿泊学習は、子どもたちの成長にとって、重要な教育活動であると思っています。それは、以下のような理由からです。

(1) ことばとコミュニケーション

集団生活の中で人と人をつなぐのは、言葉であり、コミュニケーションです。「おはよう。ありがとう。ごめんなさい。」というあいさつが最低限求められます。こうした日常生活の言葉が不可欠になります。さらに、集団で生活するには、みんなで相談して行動しなければなりません。話し合うことが重要になり、聞く、話す、伝え合う、話し合うが終始求められます。豊かな体験は、心を満たします。また、表現しようとしています。ある小学校の6年生で、それまでほとんどしゃべらなかった子が集団生活の最中、突然大きな声でしゃべり始めたそうです。周囲の子は目を丸くし、思わず皆、拍手をしたそうです。心が満たされれば、言葉はあふれ出てきます。

(2) 心の教育

集団生活では、規則正しい生活が求められます。自制しなければならぬし、わがままは、許されません。また、礼儀やマナーが求められます。友達はもとより、大人、近隣の人のあいさつができなければなりません。辛い時は、耐えなければならず、挫折や失敗を乗り越えることで、粘り強さが生まれます。

(3) 人間関係・集団適応能力

集団生活では、いやでも人との関わりは深く、複雑になります。友達との協力、支え合う関係もあれば、争いやいさかきも起こります。そこから、逃げ出すこともできません。話し合い、問題を解決し、支え合い、助け合う関係を見いださねばならず、そこに、人と人との関係が深まっていきます。交流の中で社会性が育っていきます。

(4) 生活の技能

家庭ですべての食事を作るという経験は少ないと思われます。今回の野外炊飯では、まきを組み合わせ、かまどで火をおこし、調理をし、食べ、洗うといった活動に4時間ほど挑みました。食べるという人間生活の基本がいかに大変なものであるかを実感し、作ることの喜び、日頃の家族への感謝を体感できる貴重な時間であったと思います。

大人は子どもたちのためにと、すべて用意してしまい、子供たちに何もさせないといったことをしてしまうことが多いです。学校生活でも過保護にしてしまうことが多いかもしれません。家を離れる特別な時間だからこそたくさんのことを学べたのではないのでしょうか。

ある5年生の感想で「協力ということを学んだ。これからの生活に活かしたい」というものがありました。ぜひ、そうなるようにこれからも職員力をあわせていきたいと思っています。



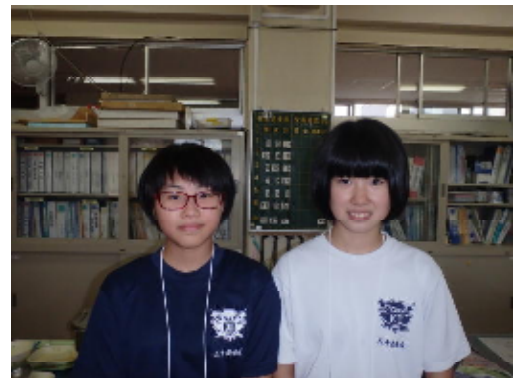
喜多方三中生が職場体験にきました

9月13日(火)、14日(水)の2日間、喜多方三中2年、五十嵐唯花(いがらしゆいか)さん、五十嵐真由(いがらしまゆ)さんが第三小学校に職場体験にきました。

現在、多くの中学校で、職業観や勤労観を身につけるため、職場体験が行われています。事業所、病院、飲食店などに出向いて、職業人としての生き方を学ぶわけですが、2人は小学校での職場体験を希望し、教師の仕事を経験しました。2日間で、1年生から6年生までの学級の授業の補助や子どもたちの世話をしたり、休み時間には、子供たちと一緒に遊んだりするなど精力的に活動してくれました。

将来、教師を目指してほしいなと思います。

唯花さん、真由さん、ありがとうございました。



8・9月のトピックス



8月26日（金）じゃがいも収穫
（今年もたくさん収穫できました）



8月28日（日）PTA親子奉仕作業
（朝早くからご協力ありがとうございました）



9月1日（木）避難訓練
（子供たちには告知せず、休み時間に実施しました）



9月4日（日）町民運動会
（鼓笛演奏で運動会を盛り上げてくれました）



9月6日（火）校内水泳記録会
（たくさんの応援ありがとうございました）



9月9日（金）鑑賞教室
（リコーダーとギターの音色に酔いしれました）

コンクール入賞情報

おめでとうございます

◎ 平成28年度耶麻地区理科研究作品展
準特選 2年 瓜生 陽 奏
入選 6年 小檜山 将 人

「風力発電のけんきゅう」
「水分をぬくのは何か」